2014年12月26日

法務大臣　上川陽子 様

公益社団法人　日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部　支部長　上浪 寛
同 保存問題委員会　委員長　安達文宏
同 中野地域会　代 表　安達治雄

旧豊多摩監獄正門の保存に関する要望書

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
貴省におかれましては、法務省旧本館の保存活用を実現される等、建築をはじめ、文化全般について深いご理解を示され、弊会としてここに敬意を表します。

さて中野区新井３丁目にあります貴省の矯正研修所東京支所につきましては、昭島へ移転するご計画であり、移転先の工事も始まりつつあると聞き及んでおります。

東京支所の現在の敷地は、旧豊多摩監獄、後の中野刑務所の跡地の南半分に当たりますが、ここに 1915(大正 4)年の刑務所開設当初からの煉瓦造の正門があります。 1983(昭和 58)年に刑務所が廃止されるに際しての日本建築学会からの要望などにより、この正門だけは解体から外され、今日まで非常に良い状態で保存して頂いております。

我が国における煉瓦造建築の中でも最も水準の高い作品の一つと言われる旧豊多摩監獄は、旧司法省に在籍した建築家 後藤慶二によるものですが、後藤は満35歳の若さで他界したため、この正門が彼の唯一の現存作品となっています。

後藤は1906(明治 39)年に東京帝国大学建築学科を卒業後すぐに司法省に入り、営繕技師としてこの監獄の建設に 1915 年まで専従し、監獄という冷徹な機能に忠実に従いながらもこれに深い空間性を与え、そのストイックな外観にはロマンチックとさえ言える表情を与えています。 工事現場にも繁く通い詰めて、囚人たちの焼いた煉瓦を、類を見ない密度の高い作品へと昇華させました。

残された正門は、小品ながらも煉瓦の積み方に及ぶディテールの全てに後藤の細やかな配慮が込められ、外観の造形的バランスの妙とともに、かつて存在した旧豊多摩監獄という作品の水準の高さと、後藤自身の並々ならぬ熱意とを如実に証言しており、日本の近代建築史にとって、最も重要な遺産の一つと言って過言ではないでしょう。

後藤は教職なども兼任し、また建築構造分野などにも研究の成果を残しましたが、後世に継承すべき彼の遺産はこの正門に象徴され、また旧司法省の建築文化への貢献の水準の高さを示すという意味で、貴省にとってもかけがえの無いものと拝察します。

以上のように、その文化的・建築的価値の重要性・希少性に鑑み、矯正研修所東京支所の機能移転に際しては、ぜひともこの旧豊多摩監獄正門が残されるよう、また可能なら、次の敷地所有者とも協力され、保存の具体的方法をご検討いただけますよう、貴省に最大限のご配慮を賜りますよう、ここにお願いする次第です。

なお、日本建築家協会関東甲信越支部、同 保存問題委員会、同 中野地域会といたしましても、公益社団法人として可能な協力をさせていただく所存であることを、お伝えしたいと存じます。

敬具

公益社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel.03-3408-8291 Fax.03-3408-8294